岩盤ボーリング柱状図

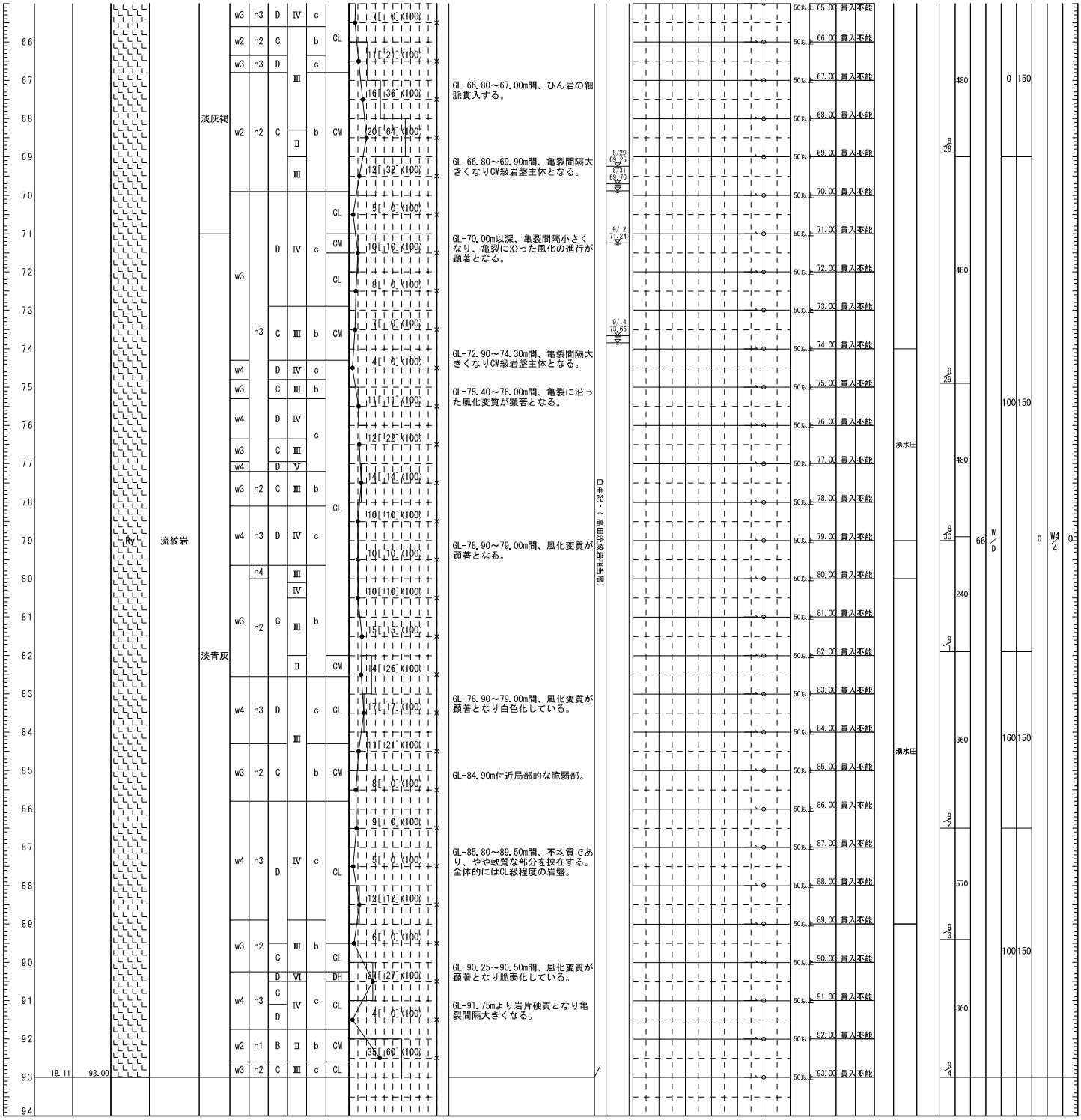
調査名	鞆松永線道路改良事業に伴う業務委託
事業・工事名	
調査目的及び調査対象	道路　トンネル・地下空洞

ボーリング名	Boring No.2	調査位置	No.73+13.41 L-183.51			北緯	34° 23' 11.6402"
発注機関	広島県東部建設事務所	調査期間	令和元年 8月 5日～ 令和元年 9月 4日			東経	133° 22' 37.1909"
調査業者名		主任技師		現場代理人		コア鑑定者	ボーリング責任者
孔口標高	TP 111.11m	角度	180° 上 90° 下 0° 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	7° 水平 0° 鉛直 90°
総削孔長	93.00m	使用機種	試錐機：東邦D-1型	エンジン：ヤンマーNFD-13型		ポンプ：東邦製BG-3C型	

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	工学的地質区分名(模様)	工学的地質区分名	色調	風化の程度	変質の程度	硬軟	コア形状	割れ目の状態	岩級区分	記事	孔内水位／測定月日	削孔月日	削孔速度(cm/h)	孔径・孔壁保護	給圧(MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	削孔水・送水量(L/min)	排水量(L/min)
	110.96	0.15	盛土	礫混じり砂	暗茶							表土層。草木根含有。マトリックスは細砂主体。	8/29 曲し			S/D	75	45	0	W10	0
1			Bd	流紋岩	茶褐	w5	h4	E	VI	d	DL	中生代白亜紀後期の流紋岩。	自記	se6	360	66/ケーシング					
2												GL-0.15～1.50m間、風化の進行著しく砂状コア主体で採取される。岩石の組織は不明瞭である。					50	150	0	W43	3
3											DM	GL-1.50～7.60m間、岩片自体は軟質であるが岩片状～短柱状コア主体となる。亀裂面に沿った風化・変質が顕著である。GL-3.80m付近全漏水する。									
4					淡茶褐	w4	h3	D	IV										0	W43	0
5											DL	GL-4.00～5.00m間全漏水する。			360						
6																					
7																					
8						w3	h2				DH	GL-7.50m以深、岩片自体は硬質な部分が大部分を占める。亀裂面は風化の進行が認められ、褐色化し一部は粘土化している。		se7							
9								C		c	CL	GL-9.40m付近、局部的な脆弱部。							0	W43	3
10							h3	E	V		DL	GL-10.00～10.60m間、局部的な脆弱部。			360						
11						w4				d											
12								D	IV		DH	GL-10.60～12.00m間、亀裂に沿った変質顕著に認められる。	自記・（目視確認）	se8							
13																					
14					灰褐		h2												0	W43	3
15						w3		C	III	c	CL	GL-15.30m以深全漏水となる。									
16						w4			IV						360				0	W415	0
17						w3			III	b		岩片は深度とともに硬質となる傾向が認められる。また、亀裂間隔も深度とともに大きくなる。									
18						w4	h3	D	IV		DH	GL-16.90～17.10m間、局部的な脆弱部。		se9							
19						w3	h2	C	III	c	CL	GL-18.00～18.40m間、局部的な脆弱部。									
20												GL-18.90m以深、コア肌滑らかとなり硬質なコアで採取される。亀裂間隔大きくなりCM級主体となる。							0	W43	0
21									IV		DH				480						
22					暗灰褐	w4	h3	D	III V	c	CL										
23									IV		DH			se10							
24						w3	h2		III	d	CL				360						

深度	N値	打撃ごとの貫入量	50回の貫入量	自沈時の貫入量
1.15	22	22/300		
1.45				
2.15	21	21/300		
2.45				
3.15	36	36/300		
3.45				
4.15	8	8/300		
4.45				
5.15	14	14/300		
5.45				
6.15	22	22/300		
6.45				
7.15	29	29/300		
7.45				
8.15	50以上	50/250	250	
8.40				
9.05	50以上	50/50	50	
9.10				
10.15	25	25/300		
10.45				
11.15	50以上	50/200	200	
11.35				
12.15	50以上	50/210	210	
12.36				
13.15	50以上	50/160	160	
13.31				
14.05	50以上	50/50	50	
14.10				
15.05	50以上	50/100	100	
15.15				
16.00	50以上	貫入不能		
17.05	50以上	50/50	50	
17.10				
18.00	50以上	50/240	240	
18.24				
19.00	50以上	貫入不能		
20.00	50以上	貫入不能		
21.05	50以上	50/120	120	
21.17				
22.00	50以上	貫入不能		
23.15	50以上	50/250	250	
23.40				

| | | |


流紋岩
淡灰褐
淡青灰
GL-66.80～67.00m間、ひん岩の細脈貫入する。
GL-66.80～69.90m間、亀裂間隔大きくなりCM級岩盤主体となる。
GL-70.00m以深、亀裂間隔小さくなり、亀裂に沿った風化の進行が顕著となる。
GL-72.90～74.30m間、亀裂間隔大きくなりCM級岩盤主体となる。
GL-75.40～76.00m間、亀裂に沿った風化変質が顕著となる。
GL-78.90～79.00m間、風化変質が顕著となる。
GL-78.90～79.00m間、風化変質が顕著となり白色化している。
GL-84.90m付近局部的な脆弱部。
GL-85.80～89.50m間、不均質であり、やや軟質な部分を挟在する。全体的にはCL級程度の岩盤。
GL-90.25～90.50m間、風化変質が顕著となり脆弱化している。
GL-91.75mより岩片硬質となり亀裂間隔大きくなる。
自重孔・自重孔変形試験
湧水圧
貫入不能